

板中3年3月9日(同) 331号

※三年間の思い出の決意

犬伏 一仁

三年間の思い出は、たくさんあるけれど、修学旅行が心に残っています。修学旅行では楽しい思い出がたくさんあって、最高でした。その他、掃除、板中祭と楽しい思い出になりました。中学三年間はとても楽しかったです。

それからの決意は、高校に合格することです。それからは合格したり、いろいろなことにがんばっていきなさい。そして、高校でも楽しい高校生活を過ごしていきたいです。そして、いろいろな夢にむかえてがんばっていきなさい。

※将来の夢

斉藤美幸

純村になつてみせるぞ

エンジニア

そして私は

キリアウマン

※三年間の思い出

滝本 元

中学校に入つて三年間、やはり部活の事が頭に残っています。みんなとワイワイにべんばつて、とても楽しかった思い出です。

いろいろな人と出会ふ、別れたり、とても楽しかったように、オミしか。たような気がしています。中学生としての三年間、とても長かったように短かったです。とても思い出の多い三年間でした。



※三年間の思い出

三原 達也

僕の思い出は、テニスのことです。最初の新人戦では、一回戦負けでした。でもほかの子が一、二位、三位をとりました。そして、北島の子がびくびくしてしまいました。でも二年生では、北島が強くならなくないません。団体戦で北島優勝、でも個人戦は、板野が優勝しました。休みの日に北島と練習試合をしました。僕は一回戦勝ったばかりでした。でも北島の二番手に勝つてうれしかった。そして、とうとう総合体育大会がきました。やはり団体戦は北島が優勝でした。個人戦は、僕は二回戦で北島に負けました。そして、北島が優勝しました。個人戦、北島一位、三位が二人でした。板野は二位が一人でした。上板口一人もいませんでした。あの北島に負けてとてもイヤしかったです。もう一度試合して北島をたおしてやりたいです。

※三年間の思い出

近藤 大

この三年間いろいろな事がありました。一番心に残っているのは、二年生の修学旅行です。これではいろいろな所をまわり、いろいろな物を見る事ができたので、心に残っています。

二番目に心に残っているのは、総体です。総体では、一回戦藍住東戦で延長十三回から四村まで勝つた時には、今まで野球をしていて本当に「ハ、タ」思います。二回戦目は上板に負けたい。今まで野球をしていてくまのこしていません。

※中学校生活

柴田 健一

この学校に入學した時、友達とうまくやっていたから、中学校生活にはやくなじめるかんじと不安でいっぱいでした。でも日がたつにつれて友達も増えて、中学校生活を楽しんで、おくれるようになりました。

二年生になると同和問題学習をじめるようになり、これからの生き方での大切な物を学んだと思います。そして、あつたという間に三年生になり、もう卒業です。たくさん思い出をありがとうごさいました。

※三年間の思い出

佐野 貴之

僕は、この三年間とても楽しかったと思います。少年自然の家や、修学旅行とあつても、いい思い出になったと思います。少年自然の家は、いかにかかとも楽しい思い出になりました。

板中祭も楽しかったし、マラソン大会も、一年からみると順位もあがって、とても楽しかったです。中学生になって、いい思い出ができて僕は、とてもよかったです。思い出です。

※いっか街で会ったなら 富原 一見
マリケナイやマーマガ
僕の胸をこめつた
この街で僕を愛し
この街で僕を憎み
この街で夢を壊したことも

君はきこえるだろうか
 けれどモロモロか
 どこかの街で会ったなら
 肩を叩いて微笑みあおう

※三年間の思い出 高原里佳

この三年間たくさん思い出がある。たいてい、その中で一番の思い出は、一年から始めたバスケットだった。毎日の練習が苦しかったり、たいてい、休みのときや、練習前にみんなとワイワイしゃべりだしたことが楽しかった。先生にいつもおこられたことも今ではとても思い出の一つです。本当はこの三年間バスケットをしてよかったなと思います。節活を通じて友達や後輩と仲よくられたこともうれいんです。

※三年間の思い出 三宅里下子

私はこの三年間、たくさん楽しい思い出が作ることができたと思います。入学式から始まり、最後の卒業式までいろいろの出来事がありました。

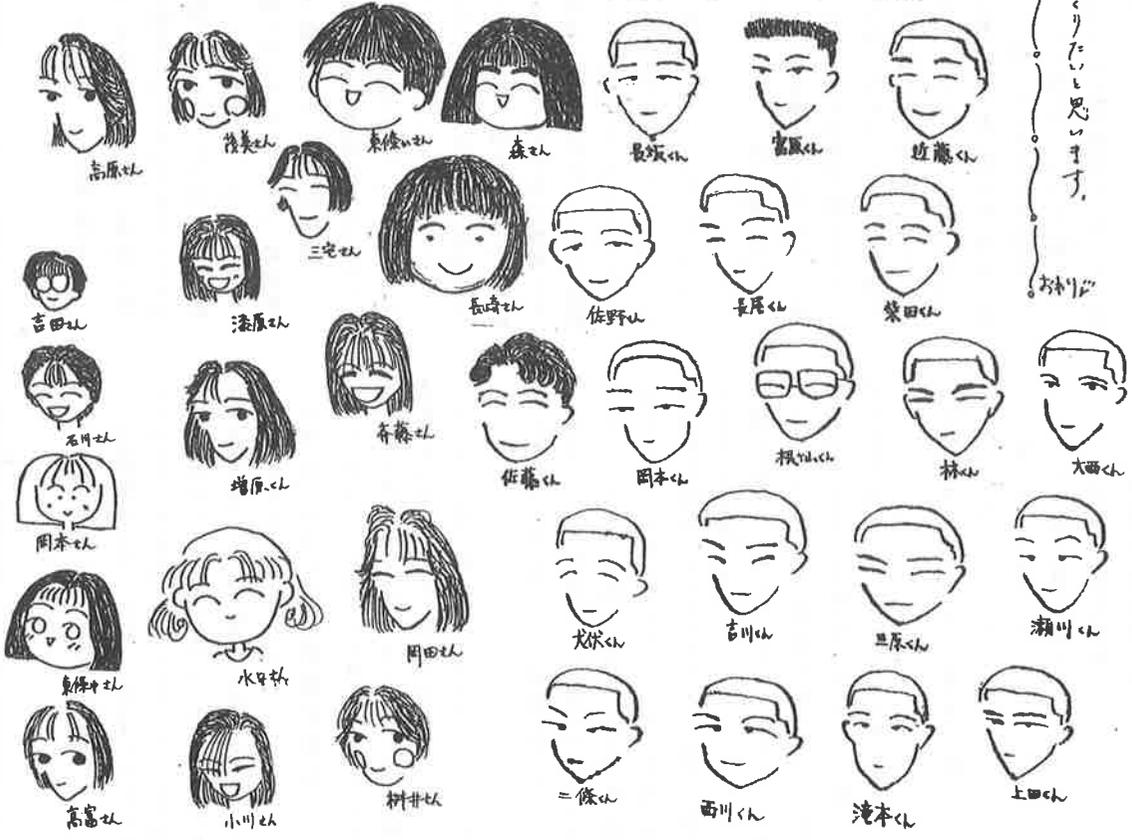
二年生の時には修学旅行がありました。私はい九州に行くのが初めてだったので、楽しかったです。初めて同じクラスになった友達とも、仲よくできたの、思い出がいっぱいありました。この三年間、私にとって貴重な三年間になりました。高校でもたくさん

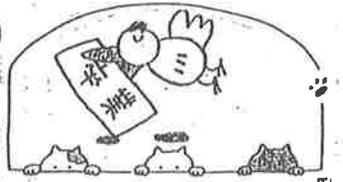


みんなの
にがおえ。



さんく思い出をありがとうと思います。
おわり





「光陰矢の如し——」

Time flies like an Arrow.

月日の過ぎるのは、本当に早いものです。希望と期待に胸を膨らませて父母とともに迎えた入学式は、昨日のように思えてなりません。

今、静かに振り返ってみると思いだされるのは、二年生のとき、不慮の事故で亡くなられた稲住さんのことです。

あの明るいそしてやさしい彼女が、今も教室でいっしょに学習しているように思えてなりません。あらためて心からご冥福をお祈りいたします。

さて、三年間喜びや苦勞を分かちあい、そしてお世話になった先生方を思い出してみます。

組	一年	二年	三年
A	桃井先生	佐野先生	佐野先生
B	西野先生	森口先生	森口先生
C	六車先生	仁木先生	仁木先生
D	柴田先生	桜間先生	後藤田先生
E	中川先生	阿部先生	阿部先生
副	阿部先生 植原先生 山口先生 松本先生	柴田先生 天狗石先生 橋本先生	豊田先生 尾形先生 横山先生 園井先生 六車先生

皆さんがこんなに立派に成長し、無事卒業を迎えたのも、先生方のおかげもあること忘れてはなりません。

行事や学習について少し思い出してみると、一年では春の淡路島への遠足でファームパークの美しい

花に囲まれての楽しい食事、一泊研修の半岐少年の家での生まれて初めての夜遊びと魚を釣らず人間釣り、釣り道具の修理に大へんであった先生方など楽しい思い出がいっぱいでした。

二年生では、放課後一生懸命練習した文化祭での劇、四泊五日の中国・九州への修学旅行で大規模な秋芳湖の見学、雄大な阿蘇外輪山の眺め、草千里での乗馬、旅館で温泉につかりながらそして部屋での友との語り合いは、昨日野のように思えてなりません。

三年生では、神山森林公園における野外での劇、体育祭での全員なわとび、運動場でのパーペキュー大会、何回も行った遠路決定のための三者面談、理科の時間最後に行く「その場テスト」、№百三十にも達した最初に行くプリント学習などが思い出されます。

しかし、一生忘れてはならないのは二・三年の二年間取り組んだ同和学習です。クラス・学年そして前学年での学習でそれぞれの思いを語り、勇気をもって部落差別解消に立ち向かう生徒に成長し、「支えあう仲間づくり」ができたことは、学習成果のあらわれと確信します。

振り返ってみると、「あっ」という間の三年間とも思われます。お世話になった先生方の中で、三年間同じ学年で学習したのはわたしだけで感慨深いものがあるとともに、皆さんを立派に無事義務教育を終了させる責任をいつも感じていました。三十年余りの教員生活うち、板野中学校で通算二十年間勤務させていたただいたので、皆さんの中の何人かのご両親といっしょに学習しました。時々、皆さんとご両親の顔をダブ



ラセたり、間違つてご両親の名前をいったりしたこともあり、なつかしくそして楽しく過ごせました。皆さんと学校生活おくれた三年間は、深く心に刻まれ、いつまでも忘れることができないと思います。

「二兎を捕らうんよう」

卒業後の遠路の中で、昼間つとめて夜間通学する人達が最も困難な生活を強いられることになると思います。単に就職か進学かというの一本遠路をとる者よりも、数倍強固な意志が要求されるでしょう。特に夜間通学することについて、近年中途退学で挫折する者が多いという事実が、それを証明しています。ここで皆さんに望むことは、「高校卒」の資格取得のためにだけで通学するのではなく、ぜひ勉強することに喜びを見出してほしいと思います。そして、昼間の仕事も最善をつくしてほしいものです。「二兎」を追う皆さん、どうか「二兎」とも捕えられようにながらばってください。

「人に頼るな 何事も自分から 積極的に行おう」

高校へ進学される皆さん、高校生活は中学生活と違ってそんなに甘いものではないでしょう。常に自分の頭で考えて学習・行動することです。人に頼らず、先ず、自分で思考し、わからないところは、先生・先輩・友人に教えをこうことが大切でしょう。よくいわれる「知ると知らざるを知る。これ知るなり。」という言葉があります。先ず、自分がわかることとわからないところを知る事が本当に知ることになります。「初心忘るべからず」自分の希望を達成するために、自信をもって自分の力で、自分の未来をきり開いていこうではありませんか。

平成3年度進路状況

学校名	学科名	男	女	計
板野	普通	54	59	113
阿波	〃	6	2	8
鳴門	〃	1	3	4
名西	〃	1	0	1
	〃(定)	3	0	3
総選	〃	3	2	5
穴吹	〃	2	0	2
池田	〃	1	0	1
城東・北	〃(定)	0	1	1
富東・羽	衛看	0	2	2
鳴門商業	商業	0	4	4
徳島商業	〃	3	5	8
阿南高专	機械	1	0	1
	制御	0	1	1
	土木	2	0	2
東工業	機械	1	0	1
鳴門工業	機械	2	0	2
	情報	2	0	2
中央	機械	1	0	1
	普(通)	0	1	1
阿北	生工	2	1	3
	生産	1	0	1
	生経	0	2	2
私立		6	8	14
訓練校	機械	2	0	2
計		94	91	185

卒業おめでとう

* 卒業おめでとう。
百八十五名全員に心からおめでとうの言葉を贈りたいと思います。

「ねんりん」も本当にこれが最後になりました。思い着くままに書き綴りたいと思います。いわば「独り言」の総集編のようなものになります。先生の個人的な感想、思いが中心になります。先生はこらえてください。

* 板野へ赴任したのが三年前でした。まったく予期しなかった任地でとまどいや不安そして期待の気持ちを走り板野へ入ったのですが板野高校のところからどう行けば良いのかわからなくて一度板野駅まで行きそこで中学校の位置を尋ねて、それでもまだ迷いながらやっとという感じで板中につきましました。ちょうど靴箱のところで初めて漆原校長先生とお会いし「校長の漆原です」と先に挨拶されて恐縮したのをついこの間のことのように思い出します。

菜の花の多いところというのが第一印象でした。中学校から少し南下がった川の辺は一面の菜の花

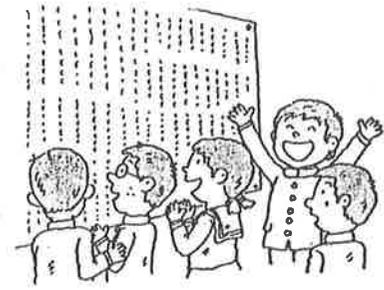
でした。担任したクラスの生徒と学活の時間に菜の花の咲き乱れる道を散歩したことが思い出されます。板野といえば菜の花というイメージは先生の中では定着し消えそうにありません。

* 考えてみればみんなの入学と同じ時だった。いわば先生とみんなは同級生ということになります。本当に早く過ぎた三年間でした。その内の二年間をみんなとともに過ごしてきた分です。昨年の年輪の最終号と同じようなことを書くことになるかもわからないが充実した三年間でした。

* やはり稲住さんのことが一番に思い出される。今日の卒業式を迎えて余計に彼女のことを考えてしまふ。みんなと一緒に卒業するはずだった。みんなの卒業を報告に行つてこようと思つています。テレビや新聞で事件・事故があつたとき家族や関係者のコメントを求める場面がよくでてくるが、初めてその無神経さに腹が立つことが実感として理解できた。仕事だといえればそれ迄だが「先生が教室で生徒に話しをするの聞き出しがあったときは「はりましたるかー」と思つたりもした。今改めて彼女の冥福を祈りたいと思う。

* 同和問題学習と「ねんりん」はこの二年間の柱であった。大きな力と充実を与えてくれ、今までの教師生活の中でも最高の日々を過ごすことのできたのは先生方と185名のみんなとのこれらの取組みがあつたからにほかならない。先生たちもみんなも同じ立場から力を合わせたからできた。ともに考え進むことの大切さ。とすばらしさを教えてくれた。同和問題学習で考え頭張つてきたこと、真価をとわれるのはこれからのあり方による。先生もみんなも同じことである。先生たちは個の2年間の授業の記録や教師としての悩み、喜び、苦しみなどを「峠を越えて」という冊子にまとめた。それは先生たちとしての運命の証であり、これからも同和問題学習にかけていくこと、決意の表れである。できることならば185名のみんなと先生たちとで「峠の会」とでも名付けた会を作りそれぞれの立場立場で頑張つていっていること、や悩みを語り合うことができればと考えたりしている。板野で2年間という時間を共有できたことをいつまでも大切に温め飛躍への原動力にしたいと思ふ。どんなことがあつても差別に負けてほしくない。いかなる場合でも差別を許すようにはしたくない。頑張つてきた2年間をだいなにするようなことがあつてはならない。これから先、苦しいことがあろうと悲しいことがあろうと常に備る場所であり心のよりどころであるような私たちがありたいと思う。

* 「ねんりん」はいわば先生の趣味で始まつたよ



板中3年3月13日(金)336号

目的効果等々についても理屈はつけられるが、結局は書きこぶ楽しかったという一言につきまゝ。教育論などはあとから出てきたものである。なぜ楽しかったか？それは読んでもわかるんをきいて、激励もいたされた保護者の方々に、お礼にも其有のものとして支持してくれたい先生方の存在があったからだ。それだけのことである。しかし、その「それだけのこと」のなんと大きなことかと思ふ。今年で八年回の学年通信になる毎年、年度末に一冊にまとめてきた。今年元のものを見て、もよんでまたと想う年もあれば不本意ながら、年もある。よかったですと思える年は、通信そのものでもさほどなく、その通信も生じた。

一年間のより方に、よろこびや感動が、多く、「一年であつた」と心から思える。そんな年の通信である。その意味で、昨年、今年と続いたような通信は、もう書けなかりもしないと思ふ。

すいぶんと勝手なミニマム礼儀なども書きた。言葉がすまじたり、走りながりたりしていてもある。そんな文章も二年間読め続けたいと、みんなに感謝したい。

※ 今年の卒業生百八十五名は、卒業後も全員が学習の場に進むことになった。短い訓練校の一年、夏人は高専の五年、とりあえずは、それだけの間は勉強が続く、働きながら学ぶ人もいる。すべての人々が、学習の中心の生活を続けることになる。高校等へは、勉強をする為に行く。社会勉強とか人間生活勉強といった広い意味

祝卒業式



の勉強ではない。机に向つて、やはり八巻の書物に向つ勉強である。そんな勉強は今やない。知識も忘れ、視野も広げるための基礎となる勉強に、学力もつけてほしい。ガリ勉にやめと言っているのは、学習を抜かして高校生活は空っぽに。実業高校は専門教科の学習もある。それも半分は一般教科がある。半分もあるのだ。

将来どのような場にも対応できる学力をつける。これからの数年の間の大きな課題であり目的である。遊ばせたい先でいらしてもできる。先でできることも、今ありたいことも、なければならぬ。ことを教へてやる。指導は、ちやうど、

※ 今年度は八名の先生をスタートした。百人とは横山先生を含めて九名。その間、園井先生が途中で転勤され、尾形先生が復帰された。阿部先生が結婚され、この間、ババになった。子ととん子の名は香香ちゃん、もちろんすず子。

他には特に変わったこともなく、元気で、ケタケタマンワ、そして必死になつてくれた。頑張った一年であった。学校は、先生達にとつては「職場」である。よき同僚に恵まれるかどうかは、先生達個人にとつて大きな問題の一つ。しかし先生方のおまけで、職場としての学校に来ることも楽しかった。おしなは言えないエピソードも、腹立てもある。口論になつたこともあつた。が、やはり仕事にやる情熱が、口論とあり、口論はなすつ「すいぶん」と思つても多い。ともかく、やま、先生達である。口から先に生まれたいというのをも地で行くように毎日だった。四月からは、

保護者の方へ

このメンバーも大きく変わるだろう。先生達も又精一杯にがんばつてほしいと思ふ。

卒業式を迎えました。今年とも違ひ中学校を巣立つて、ひとりでいます。保護者の方にとつても、ひとつの区切りがあつたかと思ひます。卒業生は、おめでとうございました。

中学校での三年間、そして特にこの一年間、いろいろな面での御協力、御援助ありがとうございました。いだから、事の多い私達ではありましたが、おかげでなんと大過なく子ども達とまた楽しく充実した日々を送ることができました。三年生は何よりも進路決定という大きな問題があります。それだけに希望の道に進んで欲しいと心から願ひつても現実の壁にぶつかるあたり、厳しさを申し上つたこともあつたかと思ひます。御密教願ひたいと思ひます。それだけに程度差はあつても自分の将来に思いをはせ、必考されたことは、この貴重な体験になつたと思ひます。上級の学校におつても全力をこめて頑張つてくれるものと確信しております。

全体厚習で必死に考へた。四月からの早期学習に一日も休まず参加し、先生方の登校も北風の吹く中で行つてきた。全体合唱で腹の底から声を出し、美味しう大会では強い風の中、パーペーパーもはかばか、いろいろな場面をおもひ出されます。保護者の方の御理解のおかげでした。今年でも違ひお父さんお母さんの元におかえしします。ほんとうに長い間ありがとうございました。

(三年主任 仁木真之)

